



Title	ワークショップからソーシャリーエンゲージドアートへの変容
Author(s)	前田, 博子
Citation	デザイン理論. 2025, 85, p. 100-101
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/100294">https://doi.org/10.18910/100294</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## ワークショップからソーシャリーエンゲージドアートへの変容

前田 博子 仁愛女子短期大学・奈良女子大学大学院在学

### はじめに

かつて衣服や布は耐久資材として扱われてきたが、ファストファッションの台頭から衣服は消耗品として扱われるようになった。これを出発点として他者とのコミュニケーションを含んだものづくりが衣服の価値を変え得るのかという問いに導かれ実践研究をおこなっている。2021年《私たちの秘密のお庭》<sup>1</sup>をきっかけに2022年から仁愛保育園つばめ組の子どもたちと運動会のための衣装制作をワークショップ形式でおこなっている。これまでのワークショップを振り返るとアート活動とソーシャルデザインの領域とを往来していることがわかった。この往来をソーシャリー・エンゲージド・アートへの変容とした。パブロ・エルゲラはソーシャリー・エンゲージド・アートとは「ソーシャル・インテラクション」<sup>アート・メイキング</sup>「社会的相互行為なしに成立しない」<sup>2</sup>「行為の仕掛け人のほかに、他者が関与することによって成り立つものだが、そこには本来、作品制作の要素（主としてアーティストのパーソナリティに基づいて構築される）が備わっている」<sup>3</sup>「芸術として認められながらも、伝統的な芸術様式と社会学、政治学など関連する分野との間に位置している。」<sup>4</sup>と述べている。

### ワークショップのエトセトラ

#### ○染め物ワークショップ（図1）

子どもたちが布（浴衣生地一反）とTシャツを好きな色で染める。

#### ○お絵描きワークショップ（図2）

せん、ぐるぐる、丸、三角、四角を用いたイラ



図2 好きなものを描いている様子



図1 私たちの布と私のTシャツを染めている様子

ストを描く。好きな食べ物をはじめたくさんのかわいいものを描く。

#### ○できたよの会

わたし／ぼくが染めたTシャツがわかるかな？と問い合わせながらTシャツを渡す。

一反の布を人数分にわける。その際一人一人が布を割いていく。（図3）

#### ○まだせんせいにお礼をいう会



図3 私たちの物が私の物になる瞬間

ワークショップを通して印象的だったことを発表し、みんなでつくってくれたマフラーやメッセージカードの授与。

#### ○お礼のお礼の会

お礼のお礼に《サスティナブローチ》<sup>5</sup>の授与。

#### 本プロジェクトの意義

親にとって子の就学前の鏡文字や線のブレ、図形の再現性等不安が残る部分もある。とはいえる。就学前独特の希少な表現と言い換えることもできる。これらの表現を衣服や布などへプリントすることで個々のアートが集合したアートギャラリーなるものが完成する。それらを持ち帰ることによって各家庭での鑑賞会が可能となり、思い出を含んだ衣服が成長のアーカイブとして配布されたことになる。また、プリントは複製可能なため保育園職員や保護者に向けて希望を募り、希望者にのみ子どもたちの描いた柄を持参してもらった衣服や小物にプリントしている。ここでも同様に一定数の人だけが持つミニギャラリーが共有資材として配布されている。

#### おわりに

Tシャツと運動会の招待状とを交換したり(図4)、お礼のお礼を渡したり、物と物との交換が事と事との交換へと変わり、さらにはモノとコトが交換される仕組みが構築されてきた。これらのモノとコトとの交換を通して園児と私、私と保育者との



図4 小さなおともだちからの贈り物、うんどうかいの招待状

関係が変わってきた。本プロジェクトは数回のワークショップを通してアートなるものをデザインしていた。これはアート領域とデザイン領域を往来するためである。その往来から子どもたちが抱える問題が見えてきた。直接的な解決には繋がらないにしろ、その子やその家庭の特性を希少として言い換えたからこそ、アートなるものへと変容し、社会的相互行為をもった衣服となり得たはずだ。

#### 追記

9月5日に運動会練習中の子どもたちに運動会衣装を届けた。2年前のワークショップで作った衣装を着て練習している園児がいた(図5)。誰の服を着ているのかを訊ねると「おねえちゃんの」と。2年前の衣服が姉から弟へと継承されている事が見受けられた。衣服を使い続けるための問い合わせから始まったプロジェクトであったが、2年という時を経て希望の「解」が得られたと感じている。



図5 姉の作った衣装(右)と、僕が作った衣装(左)

#### 註

- 1 「《私たちの秘密のお庭》仁愛保育園とのart project」デザイン理論 81, pp.74-75, 2023
- 2 パプロ・エルゲラ『ソーシャリー・エンゲージド・アート入門 アートが社会と深く関わるための10のポイント』フィルムアート社, pp.30, 2015
- 3 同上, pp.32
- 4 同上, pp.33
- 5 作品制作において出たハギレ等をブローチに再生産したもの